

■ 先週のメッセージ ■

「パートナーシップに必要なこと」 重枝 覚子主任牧師

聖書箇所 ヨハネによる福音書13章8節

ペテロはイエスに言った。「決して私の足をお洗いにしないでください。」イエスは答えられた。「もしわたしが洗わなければ、あなたはわたしと何の関係もありません。」

詩篇133:1~2 見よ兄弟たちが一つになって住むことはなんといいあわせ、なんといい楽しさであろう。それは頭の上にそそがれたとうい油のようだ。それはひげに、アロンのひげに流れてその衣のえりにまで滴る。

今、神の約束された乳とハチミツの流れる土地にいると想像する。私たちの頭の上に尊い聖霊の油注ぎがある。とこしえの命の祝福が与えられている。皆さんが全国から来てくださっ他のは神様の偉大な計画。日本の教会がイエス様によって一致する。今年2017年、ヘブル暦5777年。シンディ・ジェイコブスの預言で「7は剣。悪魔である敵は打ち負かされている。奪われたもの、壊されたものを取り戻す。どんな戦いも決して無駄ではない。経済、人間関係、家族も。」昨日祈っていたら幻を見た。七の剣が空からいっぱい降って来て、それを手に受け取ったものが戦える、と神様が語られた。神様は皆さんを勝利のために整えられている。10年前の預言で「ランカスターでもう一度関係が起こされてそこから新しく始まる」と与えられた。4年前ランカスターの「預言者の声」と言う集会に参加した時リーハイバレーのロイドみよさんと初めてお会いした。預言が切り開いた神の計画がどんどん発展して、今回のセミナーの実現にいたった。預言をもらったその時にはよく解らなくても、預言の期限は永遠。到達するまで有効。始まりは小さくだんだん大きくなる。

ヘブル語で国会のことをクネセットという。集まるところ、シナゴグとの意味も。イエス様はご自分のミニストリーを宮で始められた。悪霊を追い出し福音を教えた。霞ヶ関の国会もクネセットと呼ぼう！私たちが国会で悪霊を追い出し、福音を教える。1世紀、教会はクネセットから始まった。パウロはそこで教えメシアニックジャーと異邦人クリスチャンが共に集まった。地方教会は一つになって国のために祈るためにある。神様は日本の教会に一つとになりなさいと言われている。イエス様は父なる神に従順された。最もへりくだってくださり、神であられるのに人となられ、私たちの身代わりとなり、罪を滅ぼすため犠牲となられた。それは私たちが一つとなるため。敵は私たちがバラバラにするために言葉を乱した。ペンテコステの日、聖霊が降った時、天の言葉が与えられ、聖霊によって一つになった。イエス様の目的—教会が一つとなる—は達成された。神様は日本を一つの体として見ておられる。それを私たちが受け取り理解する時、ますます一致していくことができる。

イエス様が望まれることはイエスと共に働くこと。クリスチャンはイエスとパートナーシップを組んだ者。

ヨハネ13:1~8 さて、過越の祭りの前に、この世を去って父のみもとに行くべき自分の時が来たことを知られたので、世にいる自分のものを愛されたイエスは、その愛を残るところなく示された。夕食の間のことであった。悪魔はすでにシモンの子イスカリオテ・ユダの心に、イエスを売ろうとする思いを入れていたが、イエスは、父が万物を自分の手に渡されたことと、ご自分が神から出て神に行くことを知られ、夕食の席から立ち上がって、上着を脱ぎ、手ぬぐいを取って腰にまとわれた。それから、たらいに水を入れ、弟子たちの足を洗って、腰にまっておられる手ぬぐいで、ふき始められた。こうして、イエスはシモン・ペテロのところに来られた。ペテロはイエスに言った。「主よ。あなたが、私の足を洗ってくださるのですか。」イエスは答えて言われた。「わたしがしていることは、今はあなたにはわからないが、あとでわかるようになります。」ペテロはイエスに言った。「決して私の足をお洗いにしないでください。」イエスは答えられた。「もしわたしが洗わなければ、あなたはわたしと何の関係もありません。」

ルカ22章 さて、過越の祭りといわれる、種なしパンの祝いが近づいていた。祭司長、律法学者たちは、イエスを殺すための良い方法を捜していた。というのは、彼らは民衆を恐れていたからである。さて、十二弟子のひとりで、イスカリオテと呼ばれるユダに、サタンが入った。ユダは出かけて行って、祭司長たちや宮の守衛長たちと、どのようにしてイエスを彼らに引き渡そうかと相談した。彼らは喜んで、ユダに金をやる約束をした。ユダは承知した。そして群衆のいないときにイエスを彼らに引き渡そうと機会をねらっていた。さて、過越の子羊のほふられる、種なしパンの日が来た。イエスは、こう言ってペテロとヨハネを遣わされた。「わたしたちの過越の食事ができるように、準備をしに行きなさい。」彼らはイエスに言った。「どこに準備しましょうか。」イエスは言われた。「町に入ると、水がめを運んでいる男に会うから、その人が入る家にまでついて行きなさい。そして、その家の主人に、『弟子たちといっしょに過越の食事をする客間はどこか、と先生があなたに言っておられる』と言いなさい。すると主人は、席が整っている二階の大広間を見せてくれます。そこで準備をしなさい。」彼らが出かけて見ると、イエスの言われたとおりであった。それで、彼らは過越の食事の用意をした。さて時間になって、イエスは食卓に着かれ、使徒たちもイエスといっしょに席に着いた。イエスは言われた。「わたしは、苦しみを受ける前に、あなたがたといっしょに、この過越の食事をするをどんなに望んでいたことか。あなたがた

に言いますが、過越が神の国において成就するまでは、わたしはもはや二度と過越の食事をすることはありません。」そしてイエスは、杯を取り、感謝をささげて後、言われた。「これを取って、互いに分けて飲みなさい。あなたがたに言いますが、今から、神の国が来る時まで、わたしはもはや、ぶどうの実で造った物を飲むことはありません。」それから、パンを取り、感謝をささげてから、裂いて、弟子たちに与えて言われた。「これは、あなたがたのために与える、わたしのからだです。わたしを覚えてこれを行いなさい。」食事の後、杯も同じようにして言われた。「この杯は、あなたがたのために流されるわたしの血による新しい契約です。人の子は、定められたとおりに去って行きます。しかし、人の子を裏切るような人間はわざわざいす。」そこで弟子たちは、そんなことをしようとしている者は、いったいこの中のだれなのかと、互いに議論をし始めた。また、彼らの間には、この中でだれが一番偉いだろうかという論議も起こった。すると、イエスは彼らに言われた。「異邦人の王たちは人々を支配し、また人々の上に権威を持つ者は守護者と呼ばれています。だが、あなたがたは、それではいけません。あなたがたの間で一番偉い人は一番年の若い者のようになりなさい。また、治める人は仕える人のようでありなさい。食卓に着く人と給仕する者と、どちらが偉いでしょう。むろん、食卓に着く人でしょう。しかしわたしは、あなたがたのうちであって給仕する者のようにしています。けれども、あなたがたこそ、わたしのさまざまな試練の時にも、わたしについて来てくれた人たちです。わたしの父がわたしに王権を与えてくださったように、わたしもあなたがたに王権を与えます。

二つの福音書の過越。ルカでは、最後の食事の時、弟子たちは誰が一番偉いかと話していた。イエス様は、自分の命を空しくして捧げ、へり下って仕える者が王権を受け継ぐと教えた。ぶどう液をご自分の流す血潮、パンをあなたがたのために与えたご自分の裂かれた体、として、これからも信じて行いなさいと言われた。

ヨハネでは一人一人の弟子の足を洗った。イエス様はご自分の愛を残すところなく弟子たちに現そうとされた。洗わないで、と言うペテロに「もし、私が洗わなければあなたと何の関係もない。」ペテロは自分がイエスを愛していると思っていた。しかし、イエス様が愛しておられた。まだ罪人の時からどんなに足りなくても、ダメでも愛してくださった。そのうちにわかるようになる。求めたから与えられた、賜物をもらった、自分がやってると人は思う。能力や働きではなく、イエス様との親しい関係だと。ペテロは3回イエス様を裏切ったけれど戻った。イエス様は待っておられた。「あなた方はお互いに足を洗いあいなさい、誰が偉いと言うことではない」とおっしゃった。天国の王は互いの足を洗い合い、仕え合う。それを通して、私たちは神の国の民と言うことをもっと知り、確認することができる。

<祈り>

天のお父様、今日で計画により、愛子先生のセミナーを通して全国から色々な教会の代表者が来られました。私たちは一つの体、あなたの民であることを告白します。どうかあなたが私たちの心をきれいにしてください。プライドや人と自分を比べる高慢な心があります。教会を批判したことを許してください。違う考えを批判したことを許してください。牧師のやり方、メッセージを批判したことを許してください。教会のやり方、兄弟姉妹を批判したこと、会社の上司を批判したこと。イエス様が王権を与えようとしておられるのに、それを退けるように高慢な心を持ったことをお許してください。また、家族を批判したこと、夫を妻を、子供たちを父母を悪く言ったことを許してください。心を守ってきよめてください。イエス様は王権をすでに私たちに与えておられることをありがとうございます。それを使っていくためにへり下ります。イエス様の王権がこの国にますます侵入して来ることを見たいです。私に、教会にあなたの統治がありますように。教会は門です。あなたが血潮を塗られましたから、災いが通過していきます。イエスは日本の門です。死の災いが通り過ぎていくことを信じます。イエス様の御名によって祈ります。

*祈りの後、聖餐式をし、皆で足を洗い合った。神の豊かな恵みが注がれた。

■ 今週（4/9～15）の聖書通読箇所 ■

イザヤ書42章～エレミヤ書45章

9日	日	イザヤ書	42～51		
10日	月	イザヤ書	52～61		
11日	火	イザヤ書	62～	エレミヤ書	5
12日	水	エレミヤ書	6～15		
13日	木	エレミヤ書	16～25		
14日	金	エレミヤ書	26～35		
15日	土	エレミヤ書	36～45		